

仏舞の舞踊表現特性

—京都府舞鶴市松尾の仏舞を事例として—

お茶の水女子大学大学院 遠藤綾乃

1. 目的と対象

人間の精神的側面を基盤とする宗教舞踊では、その思想が舞踊にも集約されていることが推測される。にもかかわらず、舞踊動作そのものを表現の根幹とみなした言及は希少であり、表現に関する見解を得るために舞踊動作そのものに焦点をおくアプローチが必要であると考えられる。

本研究に先立ち、日本の七地域に伝承される仏舞を対象に同様の視点および方法で動作分析を行った。その結果、動作特性が上肢にある仏舞と体幹にある仏舞とを見出し、それぞれを「仏そのものを写實的に具現化する舞踊」と「仏に祈念する人間の姿を具現化する舞踊」と類別した。松尾の仏舞は前者に該当し、その特性が最も強く認められた舞踊である。

本研究は、舞踊の根元的価値に迫る一手段として、舞踊動作と表現性とを関連付けたアプローチの有効性を論じることを目的とする。これに従い、松尾の仏舞を事例として舞踊動作の分析結果を報告するとともに、仏像・仏画などの先行研究に基づく仏教思想の表象的な解釈を試み、内在する表現意図を検討する。

2. 方法

1997～1999年の間、現地調査を随時実施した。また、調査で得たVTR映像をもとに、後述の観点から動作分析を行った。さらに、仏教思想の表象的な解釈を加えるために、文献調査にあたった。

3. 結果及び考察

(1) 松尾の仏舞の概略

京都府舞鶴市松尾地区に伝承される仏舞は、青葉山中腹に建立する松尾寺（真言宗）で毎年5月8日の花祭り（釈迦の誕生を祝う法会。仏生会。）に際して上演される。次第は、誦経→声明と練り歩き→仏舞（約20分間）→声明と練り歩き→誦経の順序で行われる。大日如来・阿弥陀如来・釈迦如来が各2人ずつ登場し、光背、仮面、袈裟、腰鼓、手鼓などを携えている。伝承は、舞・楽ともに、門前の人々によって一家相伝でなされている。

(2) 舞踊動作に関する分析結果と解釈

松尾の仏舞の舞踊動作を分析した結果を順に示しながら、表現という視点から解釈を加えていく。

I. 身体部位ごとの運動の相対度

体幹・上肢・下肢の運動要素の相対度をグラフで示した結果、高い重心の直立姿勢を保ち、掌と肘を曲げた状態で、肩を軸にして腕を動かす動作を多用し、上肢のみに動きを集中させた舞踊であ

ることが見出せた。日本の民俗舞踊に類出するナンバや反閨などは認められなかった。日本の仏像表現には上半身が直立で上肢に表現特性があるものが多いことを反映していると考察された。

II. 動作フレーズ・ポーズと全体構成

主要な動作フレーズと静止ポーズとを图示し、全体構成を解析した結果、敏捷な回転運動や跳躍運動がないスタティックな舞踊といえた。また、一定の組み合わせのパターンを繰り返していることが明らかになった。

III. 主な動作フレーズの軌跡とリズム

動作軌跡を图示した結果、大日如来は鼓を打つ動作を所作化させたものであり、阿弥陀如来と釈迦如来とは上肢を胸前に収束させていく描円の求心的な動作であると考えられた。また、フレーズとリズムとを対応させた結果、求心的動作が、段階的に速くなる太鼓のリズムに連動していることが明らかになった。これらによって、動作軌跡とリズムとで求心的な動作が強調され、直後の「静」のポーズがより印象的に顕示されると考えられた。

IV. 手の形態

阿弥陀如来で二つの「来迎印」が見出されたものの、印の詳細な意味内容ではなく、印を頻繁に行うこと自体に意義をもたせたことが推測された。つまり、特定の意味を示す本来の印の表現とは一線を画し、「仏」全般に抱く概念的な象徴性を表現したのではないだろうか。また、大日如来と釈迦如来とは契印（道具を用いての印の表現）が認められた。仏教では鼓の響きは仏法の音を広く世間に伝え、衆生を悟りに導くものとされている。

V. 隊形変化および舞人の身体方向性

隊形変化を鳥瞰的に图示した結果、等間隔で二列に並び、隊列全体で内→斜め→外方向という方向転換を、東西南北で規則的に繰り返す。一人の舞人の身体方向性は、隊型変化に伴い、舞台のへりに沿って一周していることがわかる。周囲の観客はどの位置から見ても同様の舞を見ることができるといえ、観客を意識した開放的かつアピール性が強い演出とみなせた。

4. まとめ

松尾の仏舞では、自在な動作を可能にする身体を用いながらも、高い重心で直立姿勢を保ち上肢の動きに集中させることによって、人々の仏のイメージが表出されていると考えられた。また、阿弥陀如来は極楽へ導く仏として、大日如来と釈迦如来とは仏法の教えを世間に広く伝え衆生を悟りに導く仏として、象徴的な表現を行っていることが考察された。これらは動作特性に基づく見解であり、一つ一つの舞踊動作には表現意図に基づいた必然性があるということを、分析的な根拠をあげながら示唆できたのではないかとと思われる。